

羨ましい人(渡辺知也さんを送る)

著者	山中 浩之
引用	国際文化. 2004, 5, p.113
その他のタイトル	For a Retiring Colleague
URL	http://hdl.handle.net/10466/2696

渡辺さんとの思い出

村田京子

渡辺さんとは、私が女子大に赴任して以来約15年間、家族ぐるみの付き合いをしてきた。一度はスイスのお宅に泊めてもらい、美しい湖の傍で一緒に飲んだビールの味が格別だったのを覚えている。渡辺さんは、昔かたぎの「文人」らしく、自筆の原稿にこだわって、ワープロの操作が苦手なため、私が代わって原稿のワープロ打ちを何回かしたことも、今ではいい思い出である。また、演劇畑出身ということで、文楽や芝居にも精通していて、幅広い知識の持ち主であった。渡辺さんと文化談義ができなくなるのは、本当に寂しい限りである。

羨ましい人

山中浩之

渡辺知也さんはなぜかつねに羨ましい人であった。このたび、大学を去られるについても、やはり羨ましいと思う。束縛から身を遠ざけるスタイルを、巧まずして身に着けておられるかに見えたからである。そして何事に対しても、深刻ぶったり、もったいぶることがなく、軽くあっさりに対応されるあり方は、こちらの性急さが逆にとがめられているような気さえした。目が魅力的だった。分厚いからだの大きな顔の中の、小さくまん丸な目は、こんな言い方は失礼かもしれないが、リスかコアラのような可愛い動物が何かを見つめるような感じで、私たちはなんとなく柔和な気持ちにさせられたように思う。但し、ご自身のことについては適当にズボラをされることがあり、戸惑いと驚きを禁じえないこともあったが、学生、特に窮地に陥った学生にたいしては、こまやかな心配りを示された。一見、磊落とみえるスタイルに隠された思いをもう少し聞きたかったと思う。今はもう、羨ましい気持ちで、渡辺さんをお送りするしかないが、これからは本当の束縛から離れた生活をお元気で楽しめることをお祈りしたい。